



※撮影時のみマスクを外しています。

病院の お仕事発見

ソーシャルワーカー編

退院後も安心して生活できるように
患者さんとご家族を
親身になってサポートします。

多くの関係職種と連携し 退院支援を検討

病気で入院すると、身体のこと以外にも様々な心配事が思い浮かぶ方が多いと思います。家族のこと、お金のこと、仕事のこと。そもそも、以前のように自宅で生活できるのか…。そうした心理的、経済的、社会的問題の解決に向けて取り組むのが社会福祉士の資格を有する医療ソーシャルワーカー（MSW・Medical Social Worker）です。JA新潟厚生連の各病院にある「地域連携支援部」には、ソーシャルワーカーが常駐。相談したい方は直接センターにお越しいただくか、病院側から患者さん側にセンターの利用をご案内することもあります。また、精神疾患を抱える患者さんご家族に対しては、専門分野に精通した精神保健福祉士の資格を有する精神科ソーシャルワーカー

（PSW・Psychiatric Social Worker）が支援にあたります。

相談内容で最も多いのは、退院後の生活についてです。まずは病後治療後の患者さんの身体の変化（以前のように歩けなくなったなど）、役割の変化（家族のご飯を作れなくなったなど）をしっかりと把握。ご本人やご家族の希望をお聞きした上で、どのように対応するか（在宅生活か施設入所かなど）を検討します。

検討会では、病院内外の関係者と密に連携。多くの職種が知恵を出し合い、より良い問題解決へと向かうため全体をコーディネートするのもMSW、PSWの重要な役割です。高齢化が進み、患者さんの退院支援業務がますます重視されています。多くの患者さんに安心して地域で生活してもらえよう、日々奮闘する現場の今をお伝えします。



ソーシャルワーカーの業務内容



心理的・社会的問題の解決・調整

- ・病院の受診や入院、在宅医療に関する不安解消に向けた支援
- ・療養中の生活、就労などに関する問題解決に向けた支援
- ・高齢者の在宅療養に適した環境を整備するための支援
- ・家族間の問題に対する調整



退院援助

- ・地域の在宅ケアサービスなどの情報提供と関係機関との調整
- ・介護保険制度の説明、利用に向けた関係機関との調整
- ・転院、在宅医療などに伴う患者さんやご家族の不安解消に向けた支援



受診・受療援助

- ・状況に応じた医療の受け方の提案、医療機関に関する情報提供
- ・患者さんやご家族が診断や治療内容に不安を抱えている場合、その理解と不安解消に向けた支援
- ・入退院、入退所に伴う必要な情報の提供



社会復帰援助

- ・患者さんの職場や学校に調整を図り、復職や復学を支援
- ・退院後の心理的・社会的問題の解決に向けた支援により、円滑な社会復帰をサポート



経済的問題の解決・調整 援助

- ・患者さんやご家族が医療費や生活費にお困りの場合、活用できる支援制度を紹介
- ・患者さんやご家族の希望を踏まえ、介護保険や生活保護などについて情報を提供し関係機関につなぐ



地域活動

- ・ケアマネージャー、介護施設職員、市役所や保健所担当者など関係者のネットワーク構築に貢献
- ・高齢者、精神疾患を抱える方の在宅ケアや社会復帰についての働きかけ



けいなん総合病院

ソーシャルワーク科主任

サイトウケン
齋藤 謙

1999年入職、上越総合病院配属。2005年けいなん総合病院、2006年上越総合病院、2010年介護老人保健施設アルカディア上越、2012年村上総合病院、2014年けいなん総合病院(2018年主任昇格)、2021年より同院併設の介護老人保健施設はねうまの里勤務



治療だけでは解決しない問題がある。そこに取り組むのが私たちの使命。

※撮影時のみマスクを外しています。

例えば退院後の生活について、患者さん、ご家族、病院スタッフの間で意見が分かれることがあります。その時は、患者さん本人にとって最も利益になる方向で考えるようにしています。もちろん現実の問題もあるため、すべてが望ましい方向に援助が進むことは多くはありませんが、「心はホットに、頭はクール

—日々の仕事で大切にしていることは？—

小学校の教員を目指していた大学時代に児童養護施設に行く機会があり、そこで福祉分野に興味を持ち、社会福祉士の資格を取得しました。高齢化社会に向けて重要性が高まる職業だと思いましたが、病院ならいろいろな患者さんに会えると考えるようになりました。

—ソーシャルワーカーを目指したきっかけを教えてください。—

Interview
ソーシャルワーカーとしてのキャリアは20年以上。これまでの経験から肌で感じてきたソーシャルワーカーの使命や重要性について聞きました。

「をモットーに、患者さんのために熱く考え、でも常に冷静さも持ち続けたいです。

—ソーシャルワーカーの仕事の魅力は何でしょうか。—

患者さんが抱える問題は人それぞれで、解決方法に正解はありません。正解のない問題について考えるのは、この仕事の興味深い部分だと思います。ソーシャルワーカーは直接的な治療には参加しませんが、チーム医療になくてはならない歯車の一つ。治療だけでは解決しない問題の解決に向けて取り組むことが、私たちの役割です。

—今後の目標は？—

J A新潟厚生連のソーシャルワーカーは、比較的若い職員が多いです。若手のスキルアップを目指し、中堅者の経験を生かして全体のレベルを底上げしていきたいですね。

JA新潟厚生連のソーシャルワーカーには「医療ソーシャルワーカー(MSW)」と「精神科ソーシャルワーカー(PSW)」がいます

医療ソーシャルワーカーとは？

医療機関などに常駐し、患者さんやご家族が抱える様々な問題の解決に向け支援します。大切なのは、患者さん本人の話に丁寧に耳を傾けること。今後どのような生活をしていきたいかという要望を受け止めると同時に、懸念される問題点もしっかりと把握します。広い視点で解決方法を探り、関係各所を巻き込みながら問題解決に向けた支援を実行します。JA新潟厚生連の医療ソーシャルワーカーはすべて社会福祉士^{※1}の資格を有しています。



※1 社会福祉士…医療や介護福祉の分野で、患者さんとご家族に対して様々な支援を行う国家資格職です。

精神科ソーシャルワーカーとは？

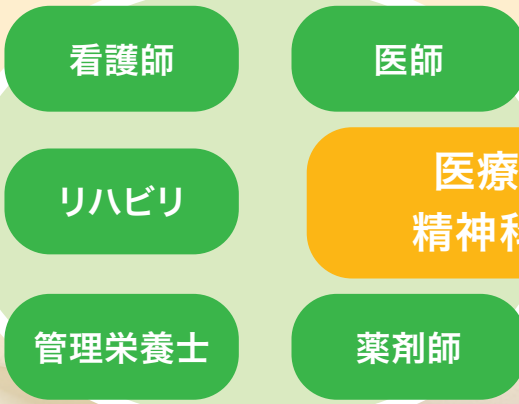
精神疾患を抱える方が退院後も快適な生活を送り、また、職場復帰ができるよう社会との橋渡し役を担います。ストレス社会ともいわれる現代の日本では、メンタルケアを必要とする患者さんが増加。精神疾患を抱える方が社会復帰するために不可欠な存在として、PSWの重要度が高まっています。JA新潟厚生連の精神科ソーシャルワーカーはすべて精神保健福祉士^{※2}の資格を有しています。



※2 精神保健福祉士…精神疾患を抱える患者さんとご家族に対して様々な支援を行う国家資格職です。

より良い支援につなげるため関係各所と連携しています

病院内での連携



病院外との連携



医療ソーシャルワーカー
精神科ソーシャルワーカー





がんを患っている方の様々な相談を受け付けています。治療や医療費、退院後の生活や通院治療のことなどどんな心配事でもお話しいただき、まずは受け止め、利用できる制度やサービスを紹介しています。センターには看護師も常駐しているので、必要に応じて連携しています。

患者さんにはそれぞれ生きてきた歴史があります。それがある日突然、がん患者さんとなってしまっわけですが、病気になることも「そのひと」であることには変わりはありません。そのことを意識し、その方らしく過ごせる環境作りのお手伝いのできたらと思っています。制度には限界があり、埋めることのできない悩みもありますが、真摯に誠実に対応し、少しでも患者さんの救いになれるよう日々取り組んでいます。

※撮影時のみマスクを外しています。

がん相談支援センター専従の医療ソーシャルワーカーとして患者さんの救いに

長岡中央総合病院 医療ソーシャルワーカー 村田 亜由美

あがの市民病院 医療ソーシャルワーカー 渡邊 さやか

1対1の対話で患者さんの思いを把握 最善の退院支援に生かす

患者さんの退院支援や各種調整などを行っています。カンファレンスでは様々な職種が集まり、患者さんやご家族を交えて話し合いますが、患者さん本人の意向を知りたい時は直接病室にうかがい、お話しさせていただくこともあります。

退院後どんな生活をしたいか、どんなことが不安かなど患者さんが抱える思いは人それぞれ。一つとして同じ問題はなく、絶対的な正解もありません。答えがないからこそ話し合いが重要ですし、患者さんの希望が必ずしも最善の道とは限らない場合もあります。患者さんの希望を取り入れつつ、どのように折り合いをつけていくか難しいですが、その分やりがいも感じられます。常に患者さんやご家族に寄り添い「最善」を提案できよう努力しています。



あがの市民病院 医療ソーシャルワーカー 渡邊 さやか



あがの市民病院 ソーシャルワーカー科主任 外山 明良

日々勉強で引き出しを増やし「支援の質」の向上へ

病気によりさまざまな変化があった時、退院後の生活に向けて準備を整えることが私たちソーシャルワーカーの役割の一つです。安心して退院後の生活が送れるよう、一人ひとりの患者さんとサービスや制度等の活用も含め一緒に検討し、準備を進めています。受け入れられるご家族に対しては、安心していただけるよう、状況確認の場や、在宅支援担当者も含めた話し合いの場をセッティングすることも多くあります。

この仕事は毎日勉強です。新しい知識や制度、支援方法についても勉強しながら自分の引き出しを増やし、支援の質を高めていきたいです。患者さんやご家族とより良い関わりができるよう、現在は認定社会福祉士※の資格取得も目指しています。

※認定社会福祉士…より高度な専門知識と技術を用いて個別支援や連携先との調整にあたります。認定には社会福祉士として5年以上の実務経験が必要です。

インタビュー

私は、ソーシャルワーカーの仕事が大好きです！

治験NEWS

治験に薬剤師も関わってます

薬剤師が治験事務局をしています。治験に参加される患者さんの人権等を守り、実施・継続することに問題はないか、治験薬(くすりの候補)を薬学的に評価しています。

- | | | | |
|-----|--|--|---|
| 実施中 | <ul style="list-style-type: none"> ● 潰瘍性大腸炎 ● 市中肺炎 | <ul style="list-style-type: none"> ● クローン病 ● 癒着防止剤 | <ul style="list-style-type: none"> ● 血友病 |
|-----|--|--|---|

※該当する方や詳細を知りたい方は、主治医にお申し出ください。治験に参加するには細かい条件があります。ご希望いただいても、参加いただけない場合がございます。



次号は「特定行為」看護師です！

ソーシャルワーカーからバトンを受け取りました、「特定行為」看護師です。次号は特定行為の仕事についての話題をお届けします。どうぞご期待ください！

